

チェコ、オーストリア、ハンガリーは、深い歴史と切り離して考えることは難しい。

それぞれの地域の建築・街並は、形成された時期の時代背景が如実に表れており、序で述べた通り、先進国とは一線をひいた美しさを感じられる。それが、長い歴史の時間軸を考えればなおさらである。

そこで生活する人々の建築に対する意識は、そういった中で営まれてきた。「Scrap and Build」ではなく「Renovation」という言葉に象徴されるように、歴史を尊重する結果は、建築の変わらぬ姿を求めているのかもしれない。

そういう意識は日本のそれとは大きく異なり、大変興味深いことである。

近年の3カ国は、ガラス張りや新しい材料などによる現代建築も見られ、新しい時代潮流が押し寄せていることも伺える。古い街並の中に突発的に現れる現代建築という景観自体が、変化し続けている様子を伝えている。チェコ、ハンガリーにいたっては、2004年EUに加盟し、その更なる発展が期待される。

そういった時期に研修旅行をし、様々な建物・文化・歴史などに触れることにより、更なる発展を期待したい。



2005.10.19 BUDAPEST 漁夫の砦にて